

## 在宅におけるフィジカルアセスメントの新しいツール

### 携帯用の腹部エコーを使用した腹部の観察と連携

排便のアセスメントに活用 画像を共有してみましょう！



エコーとは：体に照射した超音波が反射し、反射した超音波を解析画像化することで、心臓や腹部の臓器、血管等の評価をします

**エコーの種類** 1) 心エコー 2) 腹部エコー 3) 血管エコー

**エコーの長所**

- ①痛みが無く、手軽に検査できる体外から超音波を用いる。**検査のため苦痛はなく、さらに X 線検査と異なり放射線被爆がないことから、繰り返し検査する事ができる。**検査前の特別な処置も必要もない。
- ②検査の**範囲が広く、多方向から観察できる**心臓・肝臓・脾臓・腎臓等の臓器の他、頸動脈・上下肢動静脈等の血管エコーも行なう。また、装置を色々な方向から体に当てることで、**立体的に病変部を把握する事ができる。**
- ③**検査する場所を選ばず**、エコー検査装置さえあれば、検査室だけではなく病室・救急処置室等どこでも検査できる。**携帯用は在宅でも使用できる。**
- ④リアルタイムで**画像の観察**ができる心臓のエコーでは、心臓の動きや血流の流れを観察できる等、実際に臓器が動いている様子がわかる。

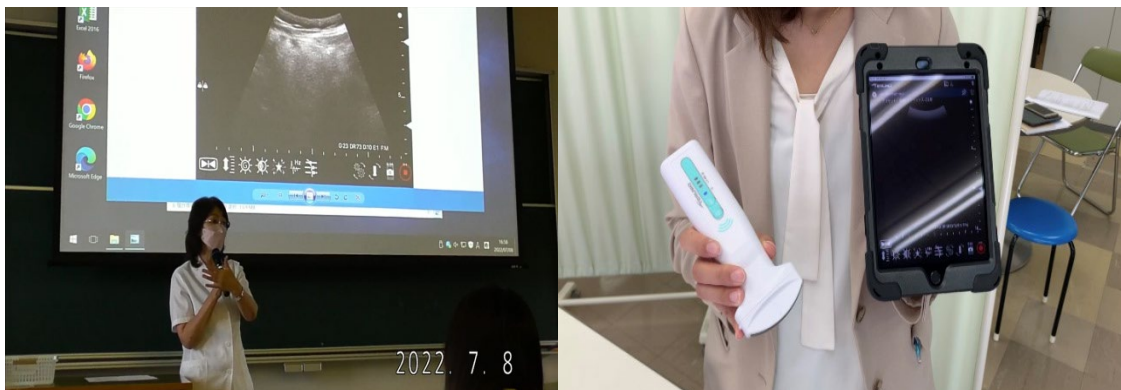
**エコーの短所**

- ①骨や空気の存在に弱い骨や空気の存在は確認出来ませんが、その先がどのようなになっているか分からない。
- ②検査する人の経験と知識によって精度が左右される

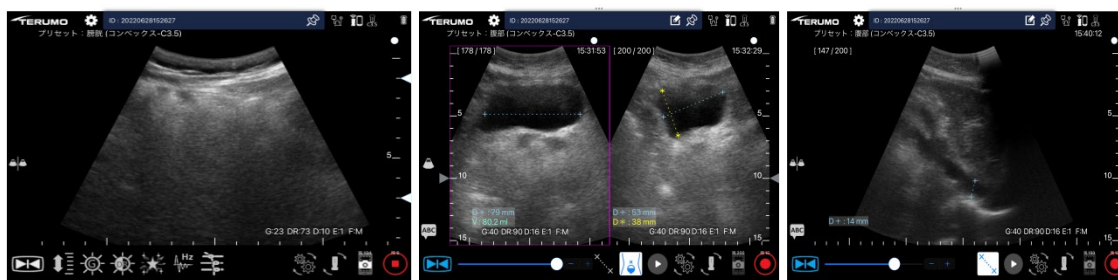
引用：<https://www.kagotoku.jp/section/clinical/tokufuku/23.php>

## 講義の様子

携帯エコーの使用方法に関する説明動画紹介（上田日本無線株式会社：臨床検査技師協力）



## 画像の紹介



便塊ありプリストルスケール3

膀胱内の尿の貯留

排尿後

講義後の学生の感想（エコー活用に関する内容抜粋）

- ①在宅でエコーが使えるという事ははじめて知った。これからそのような医療機器が増えることで在宅でも療養したいと思う人が増え、在宅看護の必要性も高くなると考えられる。
- ②エコーは在宅でも活用でき腹水の有無などを確認できることを初めて知りました。
- ③腹部エコーの画像を見て私は何が何だか分かりませんでした。さっぱりわかりませんでした。でも患者さんにより良い看護をするためにエコーはすごく大切だと思うし、今後はきちんと見れるようにならないといけないと思った。
- ④現在は携帯エコーがあり、在宅でもエコー写真が撮れることは初めて知った。
- ⑤家庭で使えるエコーの話聞いて最新機器だと知った。在宅で療養するために新しい技術が開発され在宅での療養を支えるためにはそのような人が携わっていることを感じた。
- ⑥エコーは病院でしかできないものだと思っていたけれど携帯エコーは手軽にエコーが在宅でもできることを知って腹水や便秘などの検査を詳しく行うことができるのだと思いました。
- ⑦腹部エコーなど実際に使えるようになったらより良いケアに繋がると思いました。
- ⑧最新のエコー画像を見て、尿が溜まっている所がはっきりと映っていて排尿前と後で比べて判りやすいなと思いました。